

平成24年度 甲南学園 事業計画書

はじめに

東日本大震災をはじめ国内外の政治、経済、雇用環境の激動・変化のなか、先行き不透明な状況が続いています。このような状況の中においても本学園は、これまでに財政健全化のガイドラインを堅持しつつ、財務状況の改善に取組み、教育研究環境の整備、充実に努めてまいりました。

平成24年度は、マネジメント創造学部とフロンティアサイエンス学部が完成年度を迎えます。両学部は、ともに新キャンパスで独自の教育方針を掲げた教育を推進し、年度末には有為な卒業生を社会に送り出します。また、本学園が支援を続けてきたフランス甲南学園トゥレーヌは22年間の歴史に幕を降ろし、平成24年度末で閉校いたします。

このように平成24年度は、本学園にとって、ここ数年間取組んで来た諸事業の完成期となり、学園創立100周年（平成31年）へ向けて新たな体制を整える大切な年度となります。

平成24年度は、マネジメント創造学部とフロンティアサイエンス学部の両学部で全学年が揃い学生数が増加する一方、大学全体では、実質の定員超過率を適正に近づけ、教育環境の充実を図ること、及び国からの経常費補助金収入の伸びは見込めないこと等により、帰属収入の増加は、横ばいの状況が続きますが、社会から求められている有為な人材を育成するために、各構成員の叡智を結集し、教育の質向上と教育研究環境の更なる充実と向上を目指し、以下の事業に取り組んでまいります。

I 戦略事業の展開

(1) CUBE「マネジメント創造学部」、FIRST「フロンティアサイエンス学部・同研究科」の充実

マネジメント創造学部では、引き続き、CUBEの特徴であるプロジェクト型教育を中心に教育環境の充実に努め、一期生の卒業研究プロジェクトを実施します。また、特別留学コース、マネジメントコース学生の英語力向上と留学支援を目的に、英語科目の補習、資格試験受験対策、英語オンリーゾーンの整備等の取組を強化します。これまでに進めてきた地域との連携のみならず、本学教員、ゲストスピーカー等によるセミナー、講演会を実施し、卒業生、地域企業等との連携を展開します。

フロンティアサイエンス学部・同研究科においては、「マイラボ」を活用した少人数の教育研究指導と「フロントランナー講座」、「サイエンスライブチケット」、「アイランドシップ連携」等の特色ある教育を継続して取組むとともに、これまでに整備してきたカリキュラム・マップや独自の教員間相互講義確認研修（T-Learning）等を基により質の高い講義と効果的な学修支援に注力します。また、引き続き、神戸市や理化学研究所等と連携し、「神戸医療産業都市一般公開」等を実施し、高度な教育・研究機関であることを内外に発信し、地域の活性化に努めます。

両キャンパスの事務室にあっては、キャリアセンター、学生相談室等岡本キャンパスの関係部署と密接に連携を取り、総合的な窓口として、学生生活の支援業務の高度化を進めます。

(2) 先端生命工学研究所（FIBER）の研究推進

複数の専任研究員を擁し杉本所長のリーダーシップのもと、文部科学省「私立大学戦略的

研究基盤形成支援事業」プロジェクト等を遂行し、「F I B E Rから世界へ」・「世界からF I B E Rへ」を目標に高い研究成果を生み出し続けています。また、引き続き、海外から博士研究員を受け入れるとともに、海外の研究機関と連携した世界的な研究活動と研究成果を公表する国際学会の開催の準備を進めます。産官学連携においては、先端的な研究開発拠点として「神戸医療産業都市構想」の中心地であるポートアイランドにおいて研究機関・企業等との連携を強化します。

(3) 法科大学院の展開

法科大学院は戦略プロジェクトとして第2期の4年目を迎えます。法科大学院を取り巻く状況は厳しさを増す一方ですが、昨年度に18名、合計で74名の合格者のいる実績を土台にして、修了生が確実に初回合格を達成し、全国でも中堅ロースクールとしての地位を確立するよう、教育内容の点検・改善、学習環境の整備・改善に一層努力します。入試制度の充実を継続し、入学志願者の安定した確保に努め、他方、司法試験の合否を問わず修了生のキャリア・デザインの構築と就職活動を支援する体制を学園の関係部局、同窓会と連携して強化します。「正義」「ビジネス」「ベンチャー」をキーワードとする「甲南ローヤー」が育つ学習環境を構築し、広報活動の幅広い展開を通じてブランド力の一層の向上を目指します。

II. 大学・大学院関係

1. 教育

(1) 大学院改革の推進

大学院の活性化を目的に整備した科目等履修生、聴講生、長期履修制度の定着を図り、在学中の学部学生や資格・免許・技術の修得を目指す社会人に学びやすい環境を提供します。また、各大学院の改革を推進します。自然科学研究科においては、教育力・研究力・就職力の向上に向けて将来計画を策定し、人文科学研究科では活性化を図るためコース制の導入を検討します。専門職大学院である会計大学院は、社会科学研究科の経済学専攻、経営学専攻との連携を図るべく、会計専門職専攻として社会科学研究科のもとに移設し、学部との連携強化も視野に社会科学研究科の活性化を図ります。

(2) 全学共通教育の改革

平成21年から取組んできた「全学共通教育」の改革は、ワーキンググループの答申「教養と専門とのバランスを大切に人物教育重視の教育」(「人物教育率先」)を得ているが、最近、世上提起されたアカデミック・タームのあり方、ギャップ・タームをどう捉えるかという本質的問題にも正面から取組み、検討を継続します。

(3) 自己点検評価の推進、内部質保証システムの構築

大学及び法科大学院においては、平成25年度の認証評価を控えて、自己点検・評価に取組み、自らの責任で、高等教育の質の保証と向上を図ります。「自ら前向きに取り組む」ことをキーワードに、全教職員が自らの手で自らを見直すという意味を持って、創立者平生三郎の建学理念である「人物教育の率先」を具現化する教育課程を編成し、学生の教育に効果をもたらす研究の充実を図ることにより教育の質を保証していきます。

(4) キャリア教育の推進

体系的なキャリア教育カリキュラムを軸にキャリア教育を展開していくために、学部教育と連携を図り、低年次からキャリア意識を啓発させていくとともに、卒業後の受講生へのアンケート等の追跡調査をおこない、検証結果を教育内容等に反映させ、キャリア教育プログラムを一層充実させていきます。

(5) iPad を活用した外国語教育の展開

先進的な外国語教育を展開している国際言語文化センターでは、従来のCALL教室に変え、全国に先駆けて iPad を活用した簡易CALLをパイロット的に導入し、より学習効果の高い授業環境・授業方法を検証します。

(6) 情報教育システムの更新

平成24年8月にシステムを更新し、新たな情報教育の実現へ向けて、情報活用・情報発信できる学生育成に資するシステム環境整備を行います。また、①Read/Write/Speak/Analyze/Think 能力の修得、②実習室における考える時間及び機会の増加を目指し、ノートパソコンを導入します。

(7) FD活動等教育改革への取組

全学的なFD委員の活動に加え、各組織に置かれた個別FD委員会による授業内容・方法の改善を図るための組織的な研修や研究を実施します。また、昨年に引き続き、専門教育を社会との関わりを念頭におきつつ再構築するために、大学から社会への円滑な移行に必要な能力やスキルとは何かを、産業界と連携を図りながら明らかにし、それをシラバスやカリキュラム・マップにおいて俯瞰できるようにする取組を推進していきます。

※FD（ファカルティ・ディベロップメントの略）：教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称。広く教育の改善、研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとして用いる場合もある。

(8) 「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出

—国公立4大学IRネットワーク」の展開

平成21年度文部科学省の「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立4大学IRネットワーク」（期間3年間）の取組については、この3年間の成果を検証する形で、補助期間終了後も継続すべきものは継続して取組んでいきます。

※IR Institutional Research(大学機関研究)：大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

(9) 経済学部開設60周年事業の実施

平成23年度から継続実施している大学全体の60周年記念事業の最終事業として、経済学部の開設60周年記念シンポジウム、講演会を実施し、学内外の関係者に本学の歩みを振り返る機会を提供し、建学の理念を教育のなかに実現していくことを全学的に再確認いたします。

(10) 学修支援の推進

推薦入学手続き者等を対象とした入学前教育プログラム、リメディアル教育や情報システムを活用した各学部の特徴的な学修支援プログラムを実施します。「大学生の就業力育成支援

事業」によって整備した「学生カルテ」や「ポートフォリオ」システムを活用した履修指導等を推進し、学生の学習意欲向上に向けた取組を強化します。

(11) 国際交流・留学支援の推進

国際社会でグローバルに活躍できる能力を身につけた学生を輩出することを目的に、国際交流の体験、短期の留学体験そして長期留学の実現に向け「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」に段階付けた各種制度、プログラムの充実を図ります。留学生の受け入れにおいても、本学の特色であるホームステイを維持すべく、多様なホストファミリーの確保に努めます。また、派遣・受入留学生の増加に伴うリスク管理の一環として、NAFSA に加盟し、海外協定校との関係強化と情報収集を図ります。

※NAFSA(Association of International Educators)：アメリカと諸外国との国際教育交流推進を目的に設立された非営利の国際交流団体。

(12) スポーツ強化支援策の実行

「強化指定団体制度」、「指導者招聘支援金制度」を軸としたスポーツ教育力の強化を図ります。また、指導者の質的向上を図るための「指導者講習会」を充実し、体育会学生に対する学修・生活面、就職等での指導支援の一層の強化にも取組みます。

2. 研究

(1) 学内の各種研究助成による研究支援

学園の教育・研究の推進、充実を図るべく「平生太郎基金」、「甲南学園教育・研究基金」の運用果実等をもって、研究、出版、外国人研究者の招聘等の事業に助成、補助を行います。

(2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の展開

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された下表の事業を引き続き推進します。

【私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の継続研究】

テーマ	期 間
「心の危機の見極めと実践的ネットワークの創造」 (人間科学研究所)	平成20年度から5年間
「分子クラウド環境を活用した遺伝子発現系で活躍する機能性分子のデザイン・開発システムの構築」 (先端生命工学研究所)	平成21年度から5年間
「関西地域発イノベーション・プラットフォームの構築」 (ビジネスイノベーション研究所)	平成22年度から3年間

(3) 研究支援体制の強化

フロンティア研究推進機構が核となり「競争的資金申請セミナー」等を開催し、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得に向けた情報提供を随時行ない、補助金事業の正しい理解と、きめ細かいサポートを行います。また、平成23年度に導入した科学研究費管理システムの本格的な運用を開始し、文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に対応した研究費管理体制を構築し、適正な執行管理に努めます。

(4) 知的財産管理体制の強化

知的財産を取り巻く情勢変化に対応すべく、本学における知的財産に係る取扱い、関連手続き等を随時見直します。また、引き続き、本学教員・学生を対象に「知的財産セミナー」を開催し、知的財産教育にも注力します。

3. 学生支援活動

(1) 奨学金・表彰制度の充実

学生のより高い意欲を引き出すために、後述Ⅳの2.(2)も含め優秀な学生(成績、スポーツ、留学等)への表彰制度、給付制奨学金の充実、また、留学、教職等を目指す者に対する目的別の貸与制奨学金を引き続き実施します。

(2) 学生生活支援委員会等の機能強化

学生生活支援委員会の下の小委員会を中心に、障がいのある学生の生活不安や不便さを解消します。また、同委員会の統轄の下、学生部、医務室、学生相談室、スポーツ・健康科学教育研究センターとの協働により、発達障害等の学生に対する全学的支援を推進するとともに、ピアサポーター等学生支援者の育成を図ります。

(3) 学生生活の活性化、健康管理支援

在学中に課外活動で顕著な活躍をした学生に、学長表彰・学長顕彰等各種表彰を行うとともに、引き続き、甲南大学父母の会から支援いただく「父母の会・学生GP」を活用し、学生と教職員が協力の下、学生が主体的に行う様々な取組を喚起します。

また、学生を中心とした共働互助キャンパスの実現を目指し、市民救命士育成講座、スポーツ安全講習会等を開催するとともに、ハラスメントの防止、キャンパス内禁煙の徹底、学校医による健康相談の充実、医務室でのセイフティネットの強化を図り、学生の心身の健康管理と増進を支援します。

(4) キャリア形成・就職支援

就職環境が厳しい状況下、学生の不安感を払拭し進路満足度を高めるために、学生の特性や、意識・学力等固有の違いに応じた、様々な就職支援策を実施し手厚く支援していくとともに、学内合同企業説明会等の企業との出会いの機会を増やすべく、企業との連携を強化します。また、体育会系、理系学生といった特性や、学生の意識・学力等固有の違いやニーズに応じた支援に取り組めます。平成23年度で終了した文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」の採択プログラムについては、その成果を継承し、個別相談体制・情報提供体制の一層の充実に努めます。

教職志望者には、教職教育センターにおいて、甲南ならではの教員育成を目的にした企画を実施し、キャリア形成を支援するとともに、外部機関の実施する講座や試験、全国模擬試験を通じた教員採用試験合格に向けた支援を強化します。

(5) 保護者との関係強化

保護者の方々に学生生活、修学状況、就職活動等への関心と理解を深めていただき、家庭での支援を願うことを目的に、保護者を対象にした教育懇談会、就職活動に関する説明会・講演会、各学部での個別学修相談等を実施し、保護者との関係強化に努めます。

4. 社会連携・貢献活動

(1) 地域連携・貢献活動の推進

神戸市東灘区や御影クラスセとの地域連携協定に基づく取組を展開するとともに、フロンティア研究推進機構内に設置した「地域連携センター（KOREC）」を中心に、全学的に取組める体制を構築し、連携する地域の拡大の準備など、教員及び学生が主体となって社会連携・地域連携活動を推進します。また学内博物館実習施設「ギャラリー・パンセ」での展示発表、六甲アイランド体育施設を活用したイベント、図書館・サイバーライブラリの公開利用等地域とのつながりを図ります。

(2) 高大連携・高大接続の推進

「甲南」の特色・優位性を伝える高大連携聴講生制度、指定校推薦依頼校を対象とする教育交流会の充実を図ります。また全学的な協定校推薦入学制度の推進を踏まえ、連携プログラムの充実、神戸市立六甲アイランド高等学校、兵庫県立舞子高等学校に次ぐ高大接続・連携校の検討、既存協定校との協定内容の見直しについても検討します。各学部・大学院、研究所にあっては、出張講義、模擬講義を拡充します。

(3) 教育委員会等との連携強化

兵庫県「まちの寺子屋師範塾」事業、教員免許法に義務付けられた免許更新制度に伴う更新講習を開講し、社会の要請に応えます。また、独立行政法人科学技術振興機構（JST）等が支援する各種連携事業への企画申請、採択・実施を目指します。

(4) 産官学連携の推進

本学の知的財産を有効活用するため、展示会、新技術説明会等で積極的に情報を発信するとともに、フロンティア研究推進機構において、「産学交流サロン」を開催し、産業界、官公庁、卒業生・地域住民等との緊密なネットワークを構築します。

(5) 大学間連携の推進

「大学コンソーシアムひょうご神戸」の学生交流委員会の事務局として、学生交流活動を通じた加盟大学間の交流を促進させるとともに、単位互換事業等の他の事業についても、連携推進を図ります。

(6) 生涯学習の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座を継続実施します。また、六甲アイランド体育施設においては、社会のニーズに応え「ジュニアスポーツクラブ」を充実させるとともに、スポーツ・健康をキーワードとした「元気づくりプログラム」等を企画し、参加者の健康意識向上、地域社会の活性化と同施設の有効活用に取り組めます。

5. 環境整備

(1) 防災力の強化

防災備蓄品を整備する他、ポートアイランドキャンパスに非常用発電機を設置し、災害に備えます。また、自衛消防隊の能力を高めるため、防災センターを中心に、各キャンパスにおいて無線機を活用した実践的な防災訓練を行います。

(2) 快適・安心なキャンパス構築の推進

10号館大規模改修工事により、外壁タイルの落下防止、トイレのリニューアル、バリア

フリー化、省エネ化を図り、安全・快適な施設とします。六甲アイランド体育館は、老朽化したシャワー室をはじめ、内部をリニューアルし、体育実技や課外活動の環境を整備します。不審者の侵入から学生、教職員等を守るため、監視カメラを設置、快適・安心なキャンパスを構築します。

(3) 情報インフラ整備の推進

教育研究、社会貢献を支えるIT環境を安定的に提供・維持することを目的に、情報教育システムの更新を図ります。タブレット端末からのアクセスを可能とし、クラウド化等も視野に入れたサーバ環境を構築し、将来の変化に対応し得る柔軟なシステムを目指します。また、事務システムにおいては、引き続きシンクライアント化を推進するとともに、クライアント運用管理システムを刷新し、セキュリティの強化、トラブル及びメンテナンス対応の迅速化、可用性の向上を図ります。

6. 学生募集・入学試験に係る活動

(1) 学生募集活動の強化

本学に魅力を感じ、意欲的に学生生活に取り組む学生を受け入れるために、入試結果の分析と入試制度の検証を行い、安定した志願者の数と質の確保を図ります。入試広報については、年間計画に基づき、時期・対象・地域・広報媒体等の訴求効果を最適化し、モバイルサイトへの情報発信、オープンキャンパス、高等学校教員対象の説明会、合格セミナー等の充実に努めます。また、入学試験においては、入試ミスの発生を未然に防止するための組織体制を強化します。

(2) 大学院入試制度の多様化

大学院の志願者増を目指し他大学院の動向を把握し、入学試験の制度、実施時期・回数、受験会場等の見直しを図るとともに、多種多様な説明会を実施し、ホームページを活用した広範囲にわたる情報提供を行うなど、独自の広報活動を強化します。また、フロンティアサイエンス学部・同研究科においては、高い研究意欲を持った学部学生の受け皿とすべく大学院への飛び級制度を整備します。

Ⅲ. 高等学校・中学校

1. 教育

(1) 中高6年一貫教育システムの構築と検証

将来社会で活躍・貢献できる人材育成を目指し、平成18年度より開始した「新教育システム」が平成23年度で完成を迎えたことから、同システムの検証とともに2年区切りで設定した各期間（基礎・応用・発展）について、以下の強化を図ります。

基礎期間	正しい学習習慣と生活習慣を定着させるとともに、学習センターでの「学び」を系統立てる。
応用期間	新年度ガイダンスを実施し、将来の目標設定と共に「学び」についての意識を高める。
発展期間	それぞれのコースの特性を活かした「教科科目」の充実に努めるとともに、「特色ある科目」等での高大連携の充実、各コースに対応した適切な進路指導体制の強化を図る。

(2) 「グローバル・スタディ・プログラム」の充実

文Iコースの生徒を対象とした10週間の海外留学(カナダ・イギリス・オーストラリア)を含む「グローバル・スタディ・プログラム」独自の実践的な英語力の育成とともに「言語技術教育」「国際政治・国際経済」「東アジア交流・関係史」等の学びを通じ、教科間の連携を保ちながら国際理解教育を推進するとともに、対外的な活動にも積極的に参加し真の国際人育成を図ります。

(3) 甲南一貫教育の実現

平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育を実現するために、①中学3年生を対象とした社会で活躍する卒業生による「OBワークショップ」の実施、②中高大連携講座やe-learningによる高大連携講義の充実、③甲南小学校との連携強化を図ります。

2. 学習活動・学校生活支援活動

学力向上と日常の学習意欲の喚起を目指し、①授業週五日制から六日制への移行、②全教室AV化によるITを活用した授業、同設備を利用した平生精神やマナー教育等の実施、③読書習慣を身につけるための「学年文庫」の設置や図書館利用教育の推進、④英語の「多読プログラム」による図書充実とネイティブ教員による「オーラルコミュニケーション教育」等での「言語技術」(4技能 読む・書く・聞く・話す)の修得、⑤学習支援ソフト導入による学習センターの充実、⑥メールマガジンやe-learningを活用した家庭学習との連携、⑦海外提携校とのクラブ間交流の推進、⑧新高校1年生・新高校2年生を対象とした春休み期間中の学習合宿を実施します。

3. 環境整備

安全・快適な環境整備のために、定期的な施設・設備の点検・改修を実施します。また、老朽化が進む講堂棟の耐震補強工事の推進や築15年が経過する本校舎棟の大規模修繕を検討します。

4. 生徒募集・入学試験に係る活動

生徒募集を強化するため、学内での入試説明会の充実、学外での塾対象説明会を実施します。また、リニューアルしたホームページや学校情報サイトを活用して広報活動を一層強化します。

IV. 法人

1. フランス甲南学園トゥレーヌの教育の質向上と閉校への取組

平成24年度末の閉校に向け、有終の美を飾るべく、同校の教育水準の維持・向上を図るとともに、閉校関連事業を着実に実行し、フランス・アソシエーション(法人)解散に向けた業務を学園挙げて支援します。

2. 学園創立90周年記念募金事業の取組

(1) 高等学校・中学校新体育館整備事業の具体化

高等学校・中学校新体育館整備事業は、実施が可能となる安全・安心のできる環境が整う

ことを期しています。

(2) 平生鈆三郎記念教育振興事業

「平生鈆三郎記念教育振興事業」として創設された「人物教育率先平生拾芳奨学金制度」による「甲南90周年栄誉スカラシップ」(大学)の各奨学金給付を実施します。

3. 管理運営・財政

(1) 内部統制の取組推進

監査部と連携して、内部通報制度を構築し、学園全体のリスク管理体制の強化を図るとともに、内部統制セミナーの実施、コンプライアンスチェックカードの作成配付等を通じ、内部統制に対する教職員の意識向上に努めます。また、リスク管理調査、個人情報保護・情報セキュリティの自己点検を実施するとともに、監査部による、これらのモニタリングと各種規程監査を実施します。

(2) 組織運営の活性化、人事諸制度の再構築、職場環境の改善

組織目標と個人目標の統合を目指し、組織の活性化を図り、目標達成のための組織運営に取り組めます。目標管理制度の見直しを図り、より適切な人事評価を行う体制を整えるとともに、研修体系の再構築のもと、職員の能力開発に重点を置いた取組を行います。また、教職員がいいきいと個性を發揮して安心・安全に働くことができる職場環境を整えます。

(3) 安定的な財務体制の徹底及びフランス甲南学園トゥレーヌの閉校に伴う措置

発展的でより安定した学園財政を目的とした「財政健全化のためのガイドライン」を遵守するとともに、財務体質の強化を図り、学園創立100周年へ向け、教育・研究における新機軸展開への体制を整えます。また、フランス甲南学園トゥレーヌの閉校に伴い、同校に対する貸付金、及び本学園が所有する固定資産などの財務上の措置を適切に行います。

(4) 奨学助成基金の充実

Ⅱの3.(1)に記した給付制奨学金を更に充実させるため、第3号基本金の組入れを継続します。

(5) 施設貸出サービスの改善及び省エネルギーの推進

施設貸出の申込み受付をWEB化し、利用者の利便性を高めるとともに業務の効率化を図ります。また、中長期計画に基づき省エネ投資を行う他、電力使用量の「見える化」を図ることで構成員の節電にかかる意識を喚起し、温室効果ガス排出量削減に貢献します。

(6) 教育振興募金の活動強化

大学の教育研究施設、教育プログラム、奨学金制度の充実や、高等学校・中学校の教育環境の維持・向上等の資金確保を目的に、学生・生徒の保護者を対象とした教育振興募金の活動を強化します。

(7) ネットワークキャンパス東京の活動強化

学園・大学の首都圏における活動拠点として、首都圏のもつ多様な情報を活用し学生の活動・視野を広げる教育活動の場ともなり、学生の首都圏での就職活動に資するとともに、兵庫県・神戸市とも連携しながら甲南の情報を発信し、首都圏との知的交流を深めます。

また、首都圏に就職した新卒社会人を対象とした「東京ウェルカムパーティ」、卒業生に

よる就職サポートのためのネットワーク（KOMNET）の充実等を図り、首都圏における就職活動支援を強化します。

4. 広報活動・卒業生との連携

(1) 広報活動の充実・ブランド力の向上

様々な広報媒体、WEBツールを用いて。社会に伝える価値のあるコンテンツを発信し、評価を得る広報活動を展開します。また、大学の公的役割とステークホルダーへの還元を意識した、スポーツ、芸術文化活動等への協賛を継続し、甲南ブランドを高めます。

(2) 平生日記の翻刻

創業者平生鈇三郎が残した大正2年から昭和20年までの「平生鈇三郎日記」の翻刻出版の定期刊行に注力します。平成24年度は第五巻・第六巻（大正11年5月～大正14年2月）を刊行の予定です。

(3) 卒業生との連携強化

同窓会、各地甲南会との連携を図り、同窓生とのネットワークを強化するとともに、一人でも多くの「甲南ファン」を創ることを目的にホームカミング・デーとして「オール甲南の集い」を開催します。